

(別紙様式=小学校用)

都道府県番号	43
都道府県名	熊本県

【 ①□ ②■ ③□ 】

*重点をおいた観点にチェックすること

I 学校名及び規模

玉名市立築山小学校									
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	3	3	3	2	1	18	
児童数	97	91	108	113	90	77	2	578	

II 研究の概要

(1) 研究主題

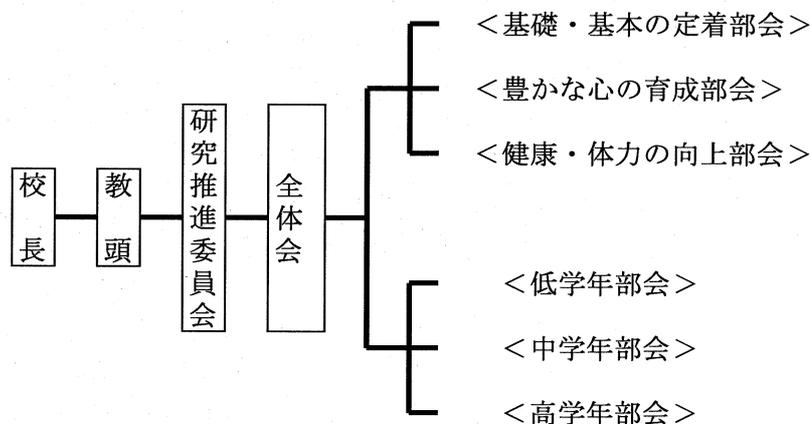
確かな学力と豊かな心を持ち、たくましく生きる築山っ子の育成をめざして

(2) 研究主題設定の趣旨

「基礎・基本の定着」「豊かな心の育成」「健康・体力の向上」、いわゆる「知・徳・体」を3本柱にして「生きる力」の育成をめざしている。

III 研究の概要

(1) 研究推進体制の工夫



(2) 研究の実際

ア 40分授業、午前中5時間授業

「授業は午前中が勝負」の共通理解のもと、40分・午前中5時間の時間割を編成し、きびきびした生活・学習態度の育成と徹底指導に努める。また、余剰時間を利用して学力向上タイムを設定し、そこで、基礎・基本のための反復練習を実施する。

イ TT、少人数指導

児童の理解や習熟の程度に応じたきめ細かな指導のためにTTや少人数指導を行い(低学年算数TT、中高学年算数少人数指導)、個人差に応じる指導の充実を図る。

ウ 教科担任制

高学年において教科担任制を導入し(国算社理音図家体)、系統性や一貫性を重視した指導を行う。互いにクラスをオープンにすることで学級・学年間の交流を多くし、学年全体の学力向上と共に指導力の向上も図る。

エ 全員研究授業

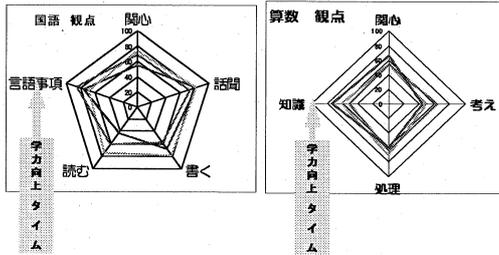
職員の授業力アップは研究授業の回数に比例する。全職員が同じ目標に向かって互いに授業を研究し合うといった校風を作り上げ、研究校であるという自覚を持つ。

オ 公開授業研の実施

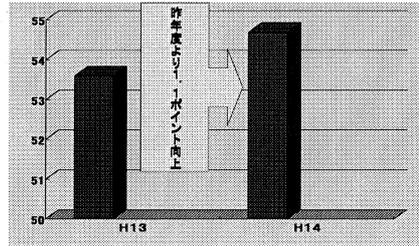
指定2年目である本校の取組を公開する場を持つことで、研究への自覚や責任感も持たせ、自己研鑽の機会として、今後の研究の方向性を明確化する。

(3) 研究の成果と課題
ア 研究の成果

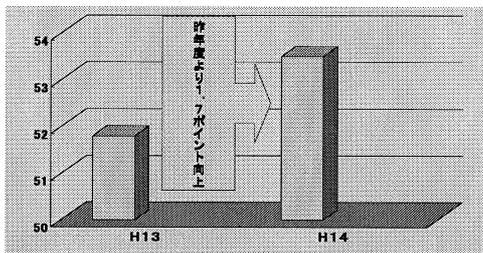
ゆうチャレンジ結果



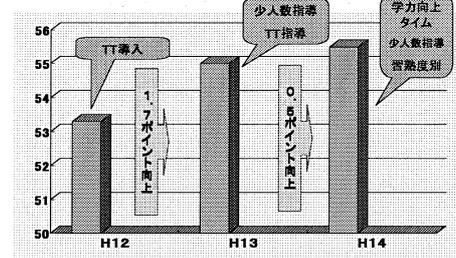
標準学力平均値



国語学力平均値



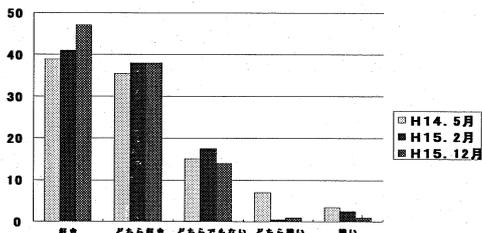
算数学力平均値



- 授業の充実を図ったり、学力向上タイム等の継続実施から、言語事項や知識面での向上がみられた。また、学力向上平均値も上記のような結果が出ている。
- 「話すこと・聞くこと」に取り組んだ結果、日々の生活の中でも話すことや聞くことに対する意識が高まり、自分のことばで思いを伝えようとする姿が見られるようになってきた。教師の評価も0.8向上し3.6(5段階中)に向上。
- 「算数が好き」と答えた児童が増え、子どもの学習意欲が高まっている。
- 算数コーナー設置により、楽しみながら課題に取り組む姿がみられる。

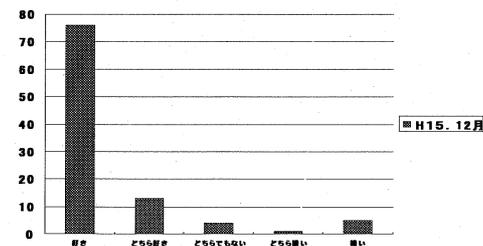
教科担任制についてのアンケート

児童(5・6年200名):%



TTについてのアンケート

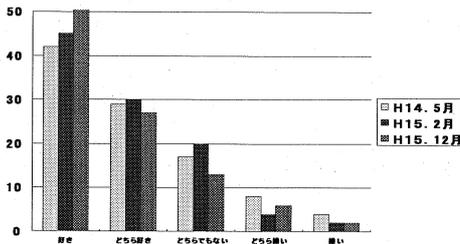
児童(1・2年186名):%



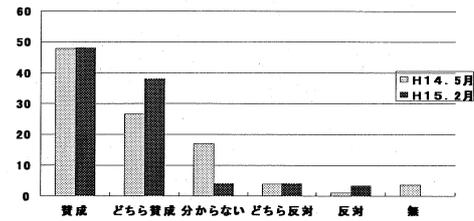
- 個に応じた指導方法の工夫として TT・少人数指導・教科担任制を実施。アンケート結果からも上記のように、「好き」と答えている児童が増えている。
- 少人数指導が好きな第1の理由は「今までより分かるようになった。」である。また、98%が話を聞き、「発表が増えた」と答えている。保護者の92.2%が少人数指導導入に賛成である。
- 教科担任制により、1クラスを7~8名の教師が担当するため、多面的な児童理解に繋がった。教科担任制が好きな理由は「いろいろな先生と学べ楽しい。」ということが1番多かった。話を聞くこと、発表回数が増えた点も成果である。
- TTは児童の9割が楽しいと答え、8割がよく分かると答えている。全クラス同じ

授業を実施することで基礎・基本の定着が図られた。

少人数指導についてのアンケート
児童(3・4・5・6年399名):%

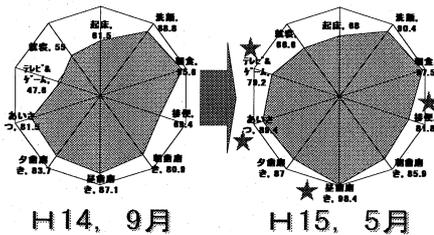


教科担任制についてのアンケート
保護者(5・6年150名):%



- 学力向上タイムでは、「進んで問題に挑戦している児童」が8～9割と、主体的な学びに繋がっている。
- 道徳的価値の自覚を図る指導方法の工夫やゲストティーチャーの協力による多様な授業づくり、「心のノート」を学習シートや板書構成にも活用し、道徳の授業の更なる充実が図れた。
- 全教育活動における道徳教育の充実を図ることによって、毎週実施のボランティア活動では、意義や活動もすっかり定着してきた。また、縦割りふれあい活動では、助け合いや励ましあう場面が多くみられるようになった。読書活動を通して、「本が好きになった」と答えた子どもが70%以上にのぼった。さらに、基本的な生活習慣・学習習慣について意識化を図ったことで、以前より、スリッパ並べやかさ並べが上手になった。
- 体力向上を目指し、体育の授業づくりでは、運動量を確保し様々なめあてに対応する場づくり、主運動に関係のあるような補強運動を取り入れてきた。ノートの活用や教材教具の開発、教科担任制・TTによりめあて学習も進んできた。

元気度検査から



- ハッスルマッスルタイム(体力向上タイム)の取り組みで、スポーツテストの結果を基に補強運動を取り入れた。雨天中止になり「せっかく楽しみにしていたのに、つまらないな。」という声も聞かれるほどである。
- 毎月実施の元気度検査(基本的な生活習慣の向上)から、取り組みを重ねた結果昼のはみがきは全クラスほぼ100%にちかい結果を出している。保護者啓発等により、少しずつ改善されてきている。
- 学校での取り組みを研究部通信「燃えろ築山っ子」を発行することで、家庭や地域に発信することが出来た。

イ 課題

- 基礎・基本の明確化により、指導内容がしっかりしてきたが、今後は、本校児童の実態に合わせ、さらに国語科における指導方法の工夫をしていく必要がある。
- 算数科における課題としては、数学的な考え方を育てるための指導の工夫をもっと研究していかなければならない。
- 豊かな心の育成を目指し、多様な道徳の授業を創造し、全教育活動における豊かな体験活動の場の工夫とその充実を図ってきた。本年度の実践の一つ一つのさらなる充実を図っていかなければならない。
- 個人差に対応できる指導法の確立と、さらに効果的な場づくりの工夫を行うことで、一層運動に興味を持たせられるようにしていく。
- 個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善では、次の3点が課題として挙げられる。
 - ① 教科担任制：児童とのつながりを持つ工夫。教師間の情報交換の充実。
 - ② 少人数指導：担当者同士の事前打ち合わせの充実と年間計画の再検討。

- ③ TT：T2の役割を再検討し、事前打ち合わせの更なる充実を図る。
- 徹底指導と能動型学習をめざした授業実践について、教師評価が、昨年度より0.4ポイント向上し、私達教師の意識が変わってきたことがわかる。授業研究会も回を重ねたが、日々の授業の充実につなげるよう、取り組んでいく。
 - 本年度の実践を振り返り、次年度は各種取り組みの精選充実を図っていく必要がある。

(4) 研究成果の普及の方策

- 公開授業研究会
 - ・ 平成15年6月27日(金)、本校にて 午前8時から午後12時30分
 - ・ 管内の小・中学校を中心に、県下各地約170名が参加。
 - ・ 本校の研究について、昨年度の取り組みを発表し、広くご意見をいただき、今後の研究に生かすため実施。
- 管内研究員等教育実践発表会での発表
 - ・ 平成16年1月28日(水) 荒尾総合文化センター 全日
 - ・ 管内研究員、運営委員、教育委員会、教職員、保護者、学校評議員
 - ・ 教育実践発表を行うことによって、実践を広く周知するとともに、指導力向上と学校教育の活性化を図る。
- 本校視察者に対する実践発表
- 研究成果の普及活動の成果
 - ・ 研究会等で参加者からいただいたアンケート結果や視察の時に、自分の学校で、早速取り組んでみたいという声があった。そのためには、どのような方法で実践に至り、どんな修正が必要であったか等についての質問が多かった。

◇ 次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校

【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上

【指導体制】 少人数指導 T、Tによる指導
 一部教科担任制 その他

【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無

【特色ある取組事例としての紹介したいポイント】

- ・ 知、徳、体の総和である「生きる力」の育成をめざした教育実践
- ・ 40分授業・午前中5時間授業の取組
- ・ 教科担任制の導入